

高崎市景観重要建造物について（高崎市 HP より）

市では、景観法（平成16年6月）に基づき、地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物の概観が景観上の特徴を有し、良好な景観形成に重要な建造物を景観重要建造物として指定しています。

「高崎市景観計画」第6章では、景観重要建造物の指定の方針について詳しく定めております。指定基準を下記のとおりを定め、本市の景観の形成に重要な役割を果たしている建造物を景観重要建造物に指定することとしました。

景観重要建造物指定基準（概要）

必須基準 1

地域の自然、歴史、文化などからみて、建築物の外観が景観上の特性を有し、景観計画区域内の良好な景観の形成に重要なものであること

- ・地域の活性化に資するもの
- ・歴史的価値があるもの
- ・建築的価値があるもの
- ・景観的価値があるもの

必須基準 2

「高崎らしさの現れた景観」の特徴を有し、地域で愛され、良好な景観の形成に必要なものであること

必須基準 3

道路その他の公共の場所から公衆によって容易に望見されるものであること

※文化財保護法の規定により、国宝、国の重要文化財、特別史跡名勝天然記念物として指定もしくは仮指定されているものは、景観重要建造物に指定できません。

指定建造物

本市では、これまで高崎市都市景観条例に基づき、高崎の文化、産業、教育、生活などを伝える歴史的な建造物などで、特に景観上重要なものを「高崎市都市景観重要建築物」に指定し、所有者と市民、そして行政が協力して保全し活用を図ってきました。

旧条例で指定していた都市景観重要建築物等（６件）は、景観法に基づく「景観重要建造物」へ移行しました。

表

指定番号	指定年月日	名称
第１号	平成２２年２月１日	旧井上房一郎邸
第２号	平成２２年２月１日	群馬音楽センター
第３号	平成２２年２月１日	（財）山田文庫
第４号	平成２２年２月１日	吉田家（旧釜浅肥料店）
第５号	平成２２年２月１日	浦野家
第６号	平成２２年２月１日	山田家（旧山源漆器店）

旧井上房一郎邸 所在地：八島町８２番地１ほか

この建物は、1952年にレーモンドの麻布笄町の自邸を、井上房一郎が同氏の同意を得て高崎の地に建てたもの。丸太の柱の外側に建具を設け自由に動く形とし、斜めに棟木に向かう登り梁も丸太とし、丸太の２ツ割の^{はさみじょう}鋏状トラスで柱と一体化させている。天井を張らないためそれらの構造体が独特な意匠となっており、戦後のレーモンドスタイルの住宅の特徴が顕著に表れている。南面に連続する深い軒がせいひつな感じを与えており、レーモンドの作風を伝える趣のある貴重な建物と、井上房一郎の作庭によるうっそうとした樹林が一つとなって、何れにも代え難い独特な情景を伝えている。

群馬音楽センター 所在地：高松町２８番地

この建物は1961年に市民の浄財を基にして、建築家アントニン・レーモンドの設計で建設されたもの。群馬交響楽団の活躍などにより群馬県が第１号の音楽モデル県となったことなどが音楽センター建設の契機となった。レーモンドはコンクリート打ち放しと折板構

造、全面ガラス張りロビーなどを直截的に造形美に結び付けた。近代建築の特質である軽快なデザインが良く表現され、周囲の高木の豊かな緑と調和を図っており、城址地区におけるシンボリックな景観を形成している。文化遺産としての近代建築 20 選（国内）や公共建築 100 選に選ばれるなど、日本国内はもとより世界的にも注目されている建物である。

財団法人山田文庫 所在地：常磐町 25 番

山田文庫は旧中山道が常磐町で直角に向きを変える角地、江戸から明治期の建物が多く残り、明治初期から産業が興隆したこの地区の中心的位置にある。明治以前の建物と思われる屋敷蔵、土蔵 2 棟、明治 16 年移築の茶室、九蔵町の茂木銀行から移築したと伝えられるレンガ塀があり、歴史探索には興味深いものがある。明治・大正・昭和と産業界で中心的な役割を担った山田昌吉、大正末期のドイツ滞在を経て京大教授、高崎倉庫社長となり、1974 年に山田文庫を創設した山田勝次郎はここを自邸として活躍した。両者の業績を考えると当時は商都高崎、文化都市高崎のシンボルといえる。

吉田家（旧釜浅肥料店） 所在地：高砂町

大正末期から昭和初期に造られた木造の旧店舗や主屋、レンガ蔵、門などが商都高崎の歴史を今に伝えている。また、主屋は保岡勝也という、一時代を築き上げた著名な建築家の設計によるもので、近代和風住宅の志向をよく表した質の高い造りとなっている。（※原則非公開）

浦野家 所在地：上豊岡町

養蚕農家の中では、入母屋造りの屋根、漆喰仕上げの外壁、鰻絵を持つ等、大変珍しい凝ったつくりとなっていること、又、都市化の進む中で主屋、馬屋、土蔵、物置そして南側の池と庭、北東側の竹林等当時の豊岡地区の代表的な農村景観が良好な状態で残っておりその意味で大変貴重な存在といえることができる。

歴史的建築物の活用という面では、当家の主屋の 2 階は「遊々舎」という名のギャラリーとして地域に開放されており、高崎市における歴史的建築物の保全・活用の先駆的な事例として今後の見本となるものといえる。（※原則として非公開）

山田家（旧山源漆器店） 所在地：本町

この山田家のある本町地区は、明治 13 年の大火により町家の大半が焼失した。その後、この一帯の町家は防火を考慮し、土蔵造り瓦屋根葺きに変貌するが、この店蔵と主屋もその頃建て替えられたものと思われる。その後、昭和 37 年、都市計画道路の整備に伴い多くの建物が建て替えられ、土蔵造りの店蔵が失われていったが、そんな中でこの山田家は、曳き家をして残された数少ない例といえる。北側の通りに向かって^{の し がわら}熨斗瓦積みの煉瓦、鬼瓦及びカゲ盛を見せる屋根、それを受ける 3 段の軒蛇腹、2 階の 2 つの窓に備え付けられた軸吊り形式の防火扉、そして漆喰で仕上げられ、更に黒く塗られた外壁を持つこの店蔵は重厚感にあふれ、通行する人々が思わず足を止める程、印象深いファザードをつくっている。

関東地方の店蔵造りの特徴を今も大切に残している建物は、高崎市にはこの山田家以外にはなく、その意味で高崎市民は大変貴重な歴史的遺産を有しているといえることができる。

（※原則として非公開）

旧井上邸が高崎哲学堂に

高崎哲学堂ボランティアスタッフ・建築家

水上勝之

高崎市都市景観重要建築物に指定されている旧井上邸が、競売にかけられるというニュースを知ったのは、一月の後半でした。

旧井上邸は、群馬音楽センターの設計者で、日本近代建築の父と呼ばれているアントニン・レーモンドの自宅を、中庭に挟んで東西を逆転し、井上さんが高崎の風土を考えて、レーモンドスタイルの建築として昭和二十七年に完成させました。

井上さんとレーモンドの交遊関係は戦前にさかのぼりますが、戦後再来日したレーモンドが建設した自邸を、訪れた井上さんが気に入り、昭和二十七年に火災で焼失した自邸を建築するため、実測をして実現した建築です。

レーモンドの建築は、人間の尺度と自然との調和を基本とした和風建築の長所を取り入れた、木造の洋風建築。また材料の素材を素直に表現することを信条とした群馬音楽センターを代表とするコンクリート打ち放し建築等、簡素でありながら居心地の良い空間を持つ質の高い建築を、日本に定着させました。バブル崩壊後、建築本来の空間の価値を採る中

で物造りの原点として、レーモンドの重要さが再認識されてきています。

また、旧井上邸は、井上房一郎さんを中心とする高崎・群馬の文化的発展の原点とも言える場所でもあります。ブルーノ・タウトを高崎に招いての活動や、群馬交響楽団の設立、群馬音楽センターの建設運動、群馬県立近代美術館の設立運動、高崎哲学堂の設立運動等、そして多くの若者や文化人がここに集い、芸術や文化等について語り感じた極めて重要な雰囲気の間がここにあります。

「文化の街高崎」の原点がこの場所から発信されてきた重要な場所です。その後、この貴重な旧井上邸を保存しようという動きが出てきました。日本建築家協会は「アントニン・レーモンドと旧井上房一郎邸」のテーマでシンポジウムを開催し、高崎市に対して購入並びに保存に関する要望書を提出、日本建築学会も同様の要望書を提出しました。その他さまざまな分野の方々からも保存の声が上がリ、市民運動にまで盛り上がり始めました。

そして財団法人高崎哲学堂設立の会が旧井上邸を高崎哲学堂として保存・活用したいとする行動を起こし、高崎市や高崎商工会議所を初め、群馬県や全国の多くの人々と協力を得て競売に応札することになりました。財団法人高崎哲学堂設立の会は、昭和四十四年に井上房一郎さんが中心となり準備会が発足し、昭和五十五年に財団法人として認可されました。これまで文化人講師などを招いての高崎市内での講演会は、通算三百四十回を超えています。

井上さんは、高崎哲学堂の設立について「哲学とは、私たちが、私たちの社会に賢明に生きようとする願望の学問です。高崎哲学堂は、現代の政治や教育の手の届かないことを勉強する高崎の寺子屋です」と残しています。

高崎市の地元区長会等も旧井上邸の保存に関して、高崎哲学堂設立の会に支援を求める申入れ書を高崎市長に提出しました。

競売は三月四日、関東信越国税局であり、三億一千万円で落札できました。同会は哲学堂を造るため、これまで一億二千四百万円の蓄積がありましたが、不足の二億一千万円は地元銀行から融資を受けることが

でき、可能になりました。五月十三日、財団法人高崎哲学堂として発足しました。

五月十三日から三十一日までの一般公開には、五千五百人を超える人々が来堂しました。その中には、静岡県や埼玉県の高崎の生涯学習の会で、白衣観音・少林寺山の洗心亭・高崎哲学堂（旧井上邸）の見学というコースのツアーを組んできたというシニアグループ。東京から来たという若い女性のグループは、少林寺の洗心亭・高崎哲学堂、そして夜は群馬音楽センターでの群響の定期演奏会を予約してあるという。また、群馬県立近代美術館・群馬音楽センター（アントニン・レーモンドギャラリー）が一階にオープンしている。二少（林山洗心亭・高崎哲学堂）の後、豊田屋旅館で食事をして帰るといふ建築関係のグループもありました。高崎哲学堂の開設がきっかけとなり、高崎の新しい観光コースが自然にできてきたようです。

高崎哲学堂として再出発にあたり、原一雄理事長は、開堂講演で「井上さんの志をついで賢明に生きるための寺子屋としてこの由緒ある場所

勉強を続けていくのではないかと呼びかけています。

今後は講演会や勉強会、演奏会などにも利用できるでしょう。また各種の展覧会や歌会・句会・茶会の場合としても志の高い「公会堂」となっていくことが、哲学堂のあるべき方向だろうとしているようです。そのためにも、一人でも多くの個人や企業・団体の方々に財団法人高崎哲学堂を共に支える会員になって頂きたいとのこと。

なお、群馬音楽センターは、二十世紀に残したい世界の文化遺産としてのモダン・ブーム建築として、日本からDOCOMOMO（オランダに本部を置く、近代建築の保存と調査のための国際組織）の二十選の一つに選ばれました。また群馬県立近代美術館は、磯崎新氏の設計として世界的に高い評価を得ており、いずれ重要文化遺産として注目されることでしょう。

みずかみ・かつゆき（一九四四年・高崎市生まれ。明治大学建築学科卒。一級建築士事務所水上勝之建築研究室代表。ミズ工房主宰）

一般公開自由記（10月～11月）

高崎哲学堂に
ご訪問いただいた方々の声を紹介します

▽開館日でもな

い日に突然おじやまさせて頂いたのに温かな心をもつてびっくりして頂きます。私は建築をやっておりますので建物の細部や家具など様々なところに感嘆いたしました。また、その他にもスタッフの方々の優しさに驚きと喜びを覚えました。これを書いてる時も、この椅子の座り心地

の良さに体がなじみ、ゆつくりと夜まで過ごしたい気持ちにかられます。今日は有り難うございました。

▽現代の生活の中で忘れられていたものがここにあったのが驚きです。嬉しい豊かなものを頂きました。県民の日の収穫です。

▽無駄の省かれた空間のデザインに感心しました。材料が思ったほど豪華でない点も良いと思いました。以上は建築についての感想ですが、こういった形で開放されていくのは賛成です。

▽素晴らしい、美しい数々のお品をしばしうっとりとし、しばらくは沈黙のひとときを過ごさせていた。だきまして厚くお礼申し上げます。子供の頃は、三年生から六年生まで南校にあり、六年生で水戸に移るまで通いました。城

田先生、松本文男先生に習いました。皆、過去の方々になりました。私も八十八歳です。一生忘れません、今日の日を。

▽私は軽井沢の聖パウロ教会の、レーモンドさん設計の附属の建物に住んでいました。とてもなつかしく、じつくりとこのたたずまいを楽しませていただきました。

▽二年前に高崎に来たときは、見学することができず、苦い思いをしましたが、今回、高崎哲学堂として公開されたということ聞き、ここに来ました。思いのほか保存状態（木の材質が良いのに加え、メンテナンスが行き届いているため）が良く、「内から外へ」の空間はさすがに感動してしまいました。▽平出さんの個展をようやく拝観させていただきました。知と静、建築に心を打たれました。

▽現世を忘れしごとく庭中にあはれやさしく落葉ちりゆく

▽高崎に住むようになって二カ月。右も左もわからぬ今日このごろ、勉強中の自分です。高崎の中心地にこのような場所があり、すごく感激しました。今日は市の企画で来ましたけれど、今度ゆつくり一人で来たいと思います。

私は竹が大好きです。嵐が来て傾いたとしても、また過ぎ去れば立ち直る、その竹の強さが大好きです。もう一度、庭の竹に逢いに来ます。

▽いつまでも保存できますことをお祈りしています。

高崎市景観重要建造物に関わって

水上勝之/水上勝之建築研究室

高崎市には景観重要建造物に指定された建物が6棟あり、3棟の建物について今まで関わってきました。

第1号、「旧井上房一郎邸」 東京の麻布笄町にあったアントニン・レーモンドの自邸を、井上房一郎が同氏の同意を得て東西を逆転した写しとして高崎に建てた木造住宅。

2002年3月4日に公売にかけられたが、(財)高崎哲学堂設立の会が落札し、5月13日に(財)高崎哲学堂としてオープンしました。私はこの理事として、ボランティアスタッフと共に維持活動に努め、屋根外壁補修工事等に携わっていました。その後高崎市への売却について、DOCOMOMO Japanからの建築評価書作成等に関わりスムーズに高崎市に移譲しました。現在は隣接する高崎市美術館の一部として公開されています。



・旧井上房一郎邸

第2号、「群馬音楽センター」 アントニン・レーモンド設計・鉄筋コンクリート造

1961年、工事中の音楽センター見学が大きな刺激となり建築に進むことを決めた建物です。

2008年5月10日「群馬音楽センターを愛する会」を設立し、2011年開館50周年記念連続シンポジウム開催。2021年開館60周年記念講演会・群響演奏会開催。開館60周年記念誌を発刊。



・群馬音楽センター夜景

・60周年記念講演会・演奏会・記念誌

第3号、「公益財団法人山田文庫」

2020年「山田文庫はあなたの本棚」として改修設計監理を実施しました。



「山田文庫はあなたの本棚」



・染色の街高崎の藍染絹布と紅染絹布に和紙を裏打ちしたクロス貼の耐震補強壁。

・紅絹を内包した行燈試作。



・閲覧室：中央にハウスインハウスとしての外壁と同じ南京下見板張り。

・アールトの丸テーブルと椅子が有る。



・西側に明治期に移設された幕末時代の茶室。高崎商工会議所の発祥の場所とされている。

●公益財団法人山田文庫は、山田勝次郎・とく夫妻の遺産を継承して私立図書館として設立した組織です。屋敷蔵・茶室・土蔵及び煉瓦塀は明治期に建設。平成 22 年に高崎市指定第 3 号景観重要建築物等として多くの市民だけでなく、古建築に興味を持つ方々が訪れています。

●「山田文庫はあなたの本棚」をテーマに充実した閲覧スペースを確保し、山田文庫の歴史を伝える歴史コーナーを新設。今まで使用できなかった 2 階を研修室として改修しました。

石膏ボードの天井を撤去すると丸太の小屋組みがあり、これを生かした室内空間構成を目指す。内壁は耐震補強の構造用合板を生かし、下部は石膏ボード塗装仕上げとし、力強い小屋組みが豊かな空間を実現しました。

染色のまち高崎の伝統でもある「藍染シルク」と「紅染めシルク」を壁クロスとして実験的に活用しました。たかさきの「歴史まちあるき」の中心的な場所ですので、外部テラスにベンチコーナーを設置し、休憩地として開放しています。